

第3回高等学校部会について

2016年6月1日に中央教育審議会教育課程部会の高等学校部会が開催された。

10:00から12:00まで文部科学省3階1特別会議室で行われた。

一般傍聴者は40名程度であった。

今回の議題は以下の通りである。

- (1) 高等学校の教育課程の改善・充実について
 - ・ 「通級による指導」の導入について
 - ・ 教科・科目等の構成及び単位数について
 - ・ 取りまとめに向けた論点と総則の改善イメージについて
- (2) その他

まず、事務局より資料の説明があった。

資料4「高等学校における『通級による指導』の導入について」では、障害を持つ生徒に対して、通常の学級に通いながら一部を特別な場で学ぶ教育課程を編成できる制度を提案した。小・中学校では既に制度化されており、それに準じた形で行うことを想定している。

資料2-1「高等学校における教科・科目の構成及び単位数について（検討案）」と資料2-2「教科等別ワーキンググループ等の議論の進捗状況等（新科目関係）」では、各ワーキンググループで検討された科目構成の見直しについて示した。国語、数学、外国語（英語）、地歴公民、情報、家庭科において科目構成が変更となり、「理数探究（仮称）」が新設される。また、総合的な学習の時間は「総合的な探究の時間（仮称）」と名称を変更し、「理数探究（仮称）」との単位の代替が検討されている。卒業に必要な単位数は現行の74単位を維持し、必修科目についても現行の単位数を維持するものとする。

資料2-3「高等学校の教科・科目の構成に関する参考資料」では、キャリア教育を重視する観点から特別活動（ホームルーム活動）を改善し、「公共（仮称）」の科目とも関連させながらポートフォリオを活用した社会との接続と振り返りを行うことを示した。

10:30頃から「通級指導」についての意見交換が行われた。

多くの委員は「通級指導」の制度化に異論はないとしながらも、教材や指導者などの支援体制がほしい、教員の意識改革のための研修をしっかりとしてほしい、保護者の理解などの条件整備が必要である、その他の生徒に対する関わり方などの指導が重要との指摘があった。また、専門学科においては実習など怪我をする危険性が伴う科目もあり、補助が必要な場合の配慮を検討してほしいとの要望もあった。

10:45 頃から「科目構成と単位数」についての意見交換が行われた。

選択の在り方などどのように学べばよいのかわかりづらいので、74 単位の振り分けの表を作ってほしいとの意見に対しては、現行の単位数をベースにそれぞれの科目内でこれまでと変わらないようにするとの回答があった。

国語と地歴にも「探究」が入る名称の科目があるが、「理数探究」だけが総合の時間と代替可能なのはなぜかとの質問があった。これについては、教育課程全体が探究活動を推進しているので「探究」の名称が多いが、国語と地歴は教員が問いを提示する色合いが強く各教科の文脈の中での探究であるのに対し、総合や理数探究は生徒自らがテーマを設定し、教科を超えた知識の活用をする探究活動という違いがあるとの回答があった。

また、企業との連携が必要な部分について、もっと働きかけをすべきだとの意見もあった。

キャリア教育については、現状において大学受験対策や就職対策に終始しミスマッチが起きていることから、学びの三つの柱を生徒自身が認識すること、全体を見通してポートフォリオをしっかりとつけることが大事だとの意見があった。

その他、教科書が指導要領の理念や考え方に則したものになるような検定の在り方、現実では授業の時間が不足しているなどの状況で単位認定ができていいのかという課題が指摘された。

11:30 頃からは資料 5「総則・評価特別部会、小学校部会、中学校部会、高等学校部会における取りまとめに向けた論点（案）」と総則の改善イメージ（資料 6-1～6-4）について説明があった。

「カリキュラム・マネジメント」を実現するために、それに対応したわかりやすい形になるような総則の構造化を目指して作成を進めている。

これについて意見交換が行われた。

カリキュラム・マネジメントのイメージ図では個々の発達支援としてまとめられている内容が第 4 款と第 5 款の 1 に分けられているのは分かりづらいのではないかとの指摘があった。

総則のイメージには、「国際性」と「学び直し」についてもっとしっかりと書き込んでほしいとの要望があった。

カリキュラム・マネジメントは年間を通した見直しの作業が必要であり、そのために時間と人手がかかるので、条件整備が重要となるとの意見があった。

教科横断的視点も大事だが、入学から卒業までを見据えて 3 年間を通したテーマを探究する学びという視点も取り入れてはどうかとの意見もあった。

次回は 6 月 15 日（水）10:00～12:00 に開催予定である。